横浜国立大学×首都大学東京

対抗ゼミナール

面接における服装および発言の影響に関する調査

チーム　喧嘩

私服面接というものが、新卒採用の現場に登場した。自由な社風をアピールしたい、学生の常識力を測りたい、導入の理由はさまざまである。
従来通りのスーツでの面接ではなく、私服で面接を行うことに、どのような意義があるのだろうか。本当に、企業の目的は達成されているのだろうか…
スーツ面接を受ける身として、私達はそのような疑問を感じていた。
今回の対抗ゼミのテーマが「評価」と決定したとき、私達は新卒採用における評価、特に、私服面接に関わることにフォーカスしようと考えた。

▽動機

A.今回の手術は、死亡確率20%です。

B.今回の手術は、生存確率80%です。

突然ですが、もしあなたが、同意書を書かされて全身麻酔をかけられるような手術を受けるとしたら
どちらの表現で医者から説明を受けたいですか？

人間誰しも不安になります。５分の１の確立で死んでしまうんだ…と思いながら手術に向かいたい人はいないでしょう。
このようにヒトは、ぱっと見の印象で、その後の心情や選択が大きく左右されることがあります。
コレをフレーミング理論といいます。

▽動機

はじめの4分間で、ひとの第一印象は
形成される

――心理学者ズーニン博士

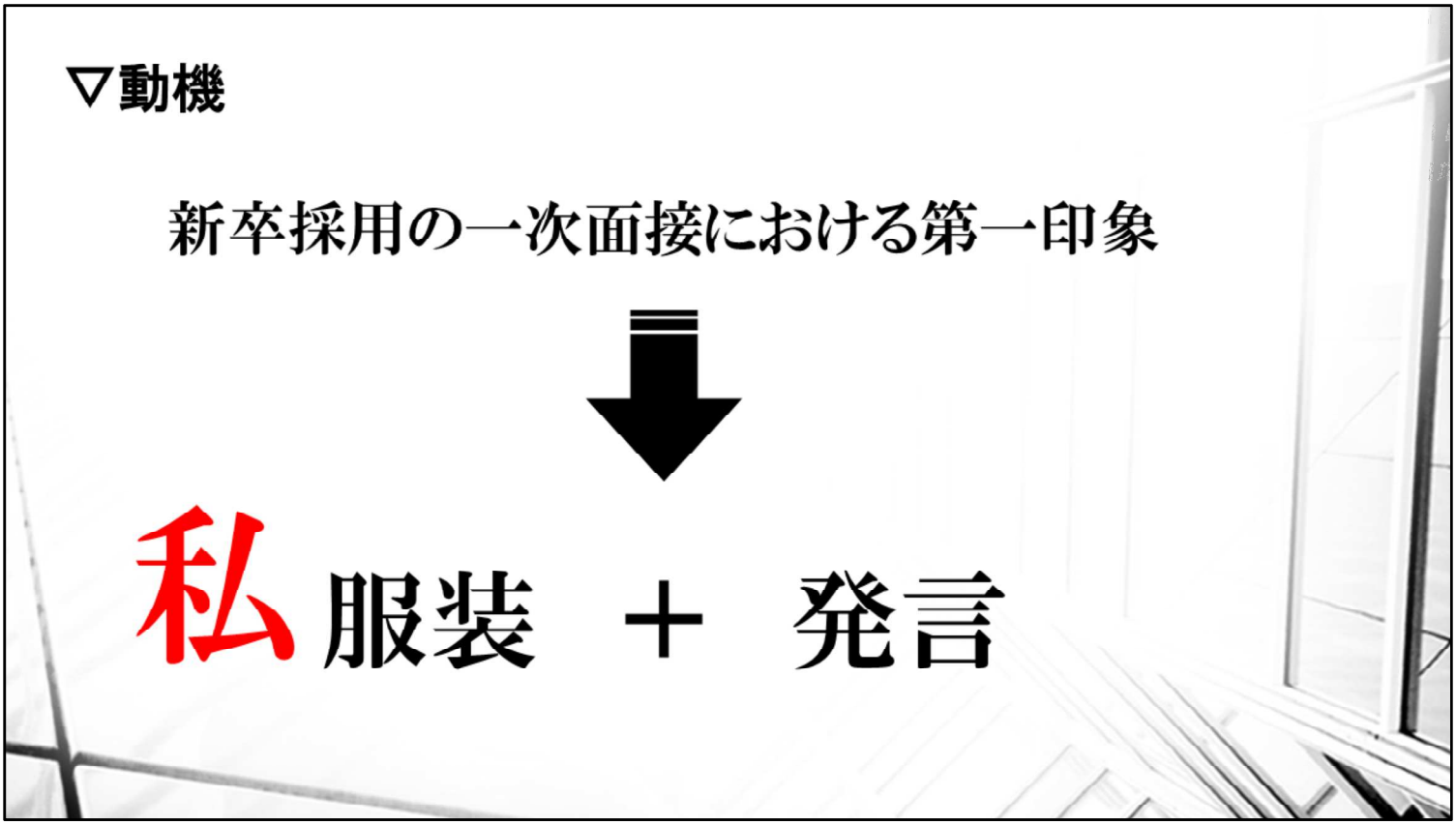
一度形成された第一印象は、その後の評価
に大きく影響する

――ハフカット＆カルバートソン

さて、アメリカでこのような研究報告があります。心理学者ズーニン博士の研究からは、
「はじめの4分間で、ひとの第一印象は形成される」
ということ。　また、ハフカット氏とカルバートソン氏の研究からは、
「一度形成された第一印象は、その後の評価に大きく影響する」 ということ。

先ほど説明した、フレーミング理論に関連する研究結果です。先ほどは成功と失敗のどちらのパーセンテージに注目するかによって、手術についての印象の受け取り方が異なるという例でしたが、物事の印象だけでなく、人間の評価についても、はじめに受ける印象が大きな影響力を持っていることが伺えます。

これを新卒採用の面接の場面で想定すると、我々学生にとって第一印象の形成は、死活問題となってきます。悪い第一印象を形成されてしまったら、悪いイメージを引きずられながら、その後の面接が行われることになるからです。
第一印象は、新卒採用において、非常に重要な命題なのです。



では、新卒採用の一次面接において、その第一印象はなにをもって形成されるでしょうか。
それはおそらく、学生がどんな服装で面接に臨んだか、ということと、面接においてどんな受け答えをしたのか、ということ
すなわち、服装と発言に大別されるでしょう。

（クリックする）
ここで、私たちのキーワードとして掲げた「私服」が
新卒採用の一次面接における第一印象形成に絡んでくるわけです。

▽調査概要

Q. 私服面接における、適切な服装について

Q. 新卒採用の一次面接における、第一印象の形成について

というわけで
私達は今回、この二つの調査を行いました。

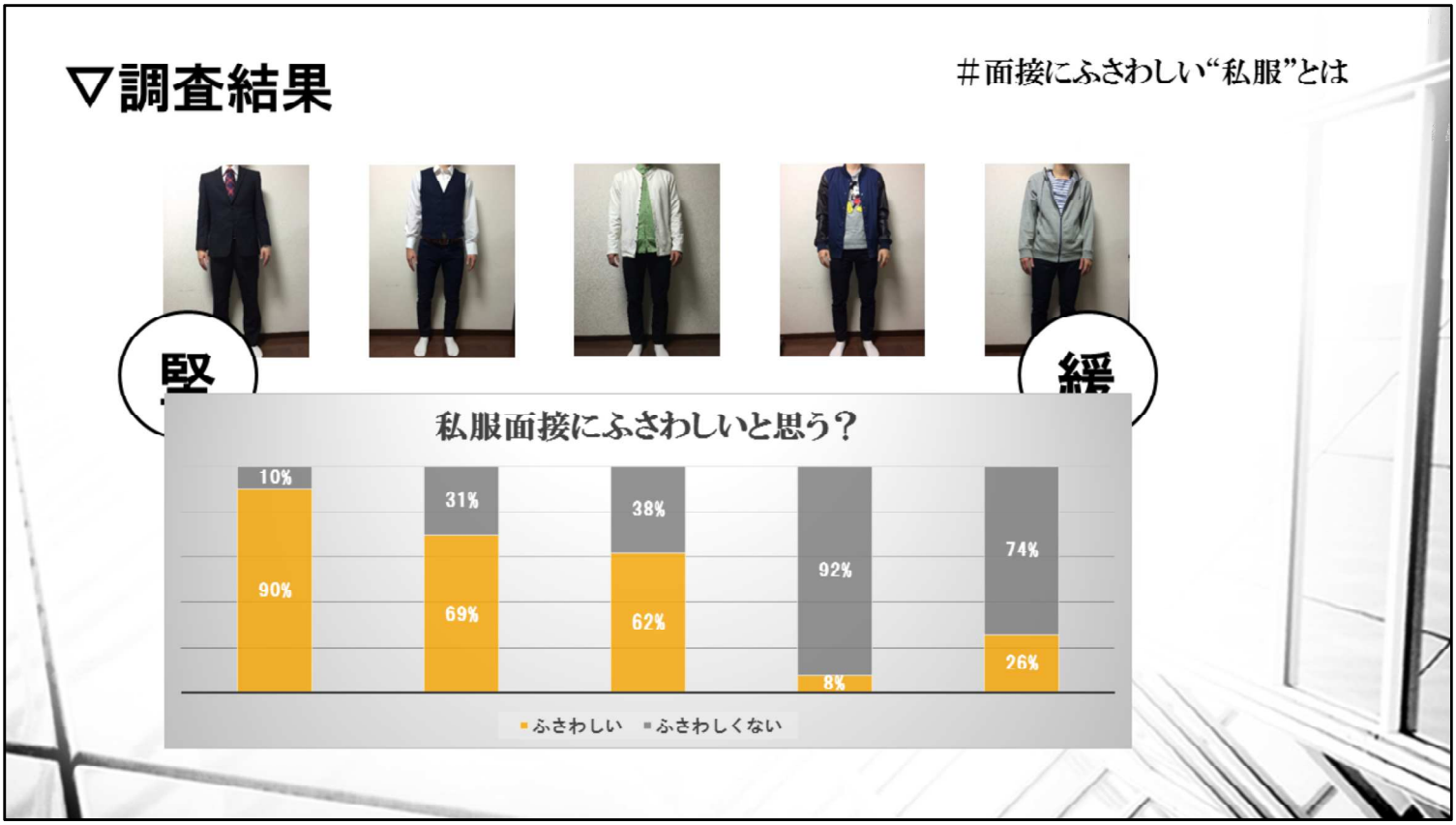
ひとつは、私服面接における適切な服装について
もうひとつは、新卒採用の一次面接における、第一印象の形成について
です。

▽調査概要

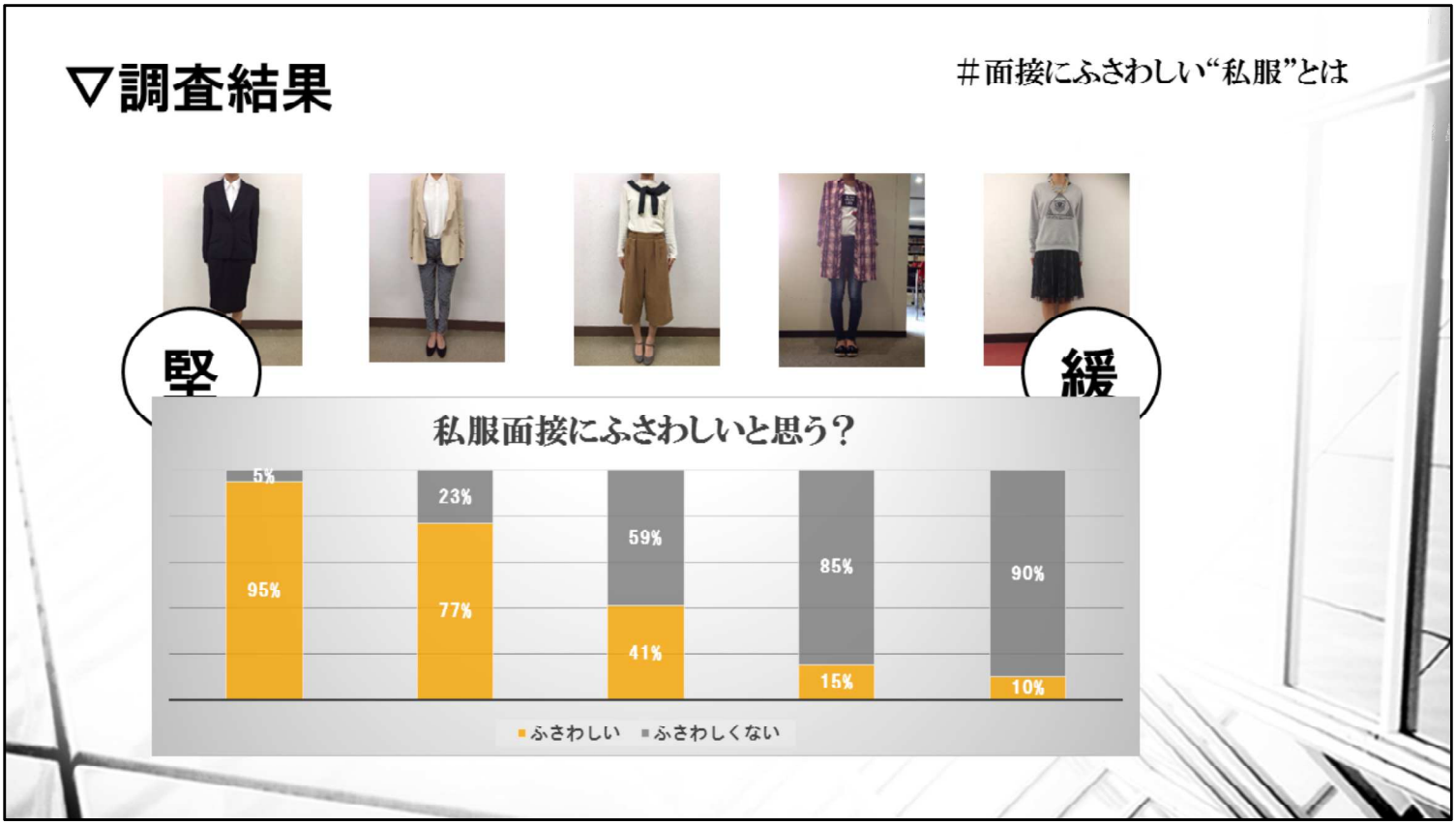
協力してくれた方々

- 日本全国の社会人81名
- 年齢や性別は20代から60代まで老若男女
- 業界はメーカー、商社、金融、小売、サービス、通信、広告、公官庁などなど

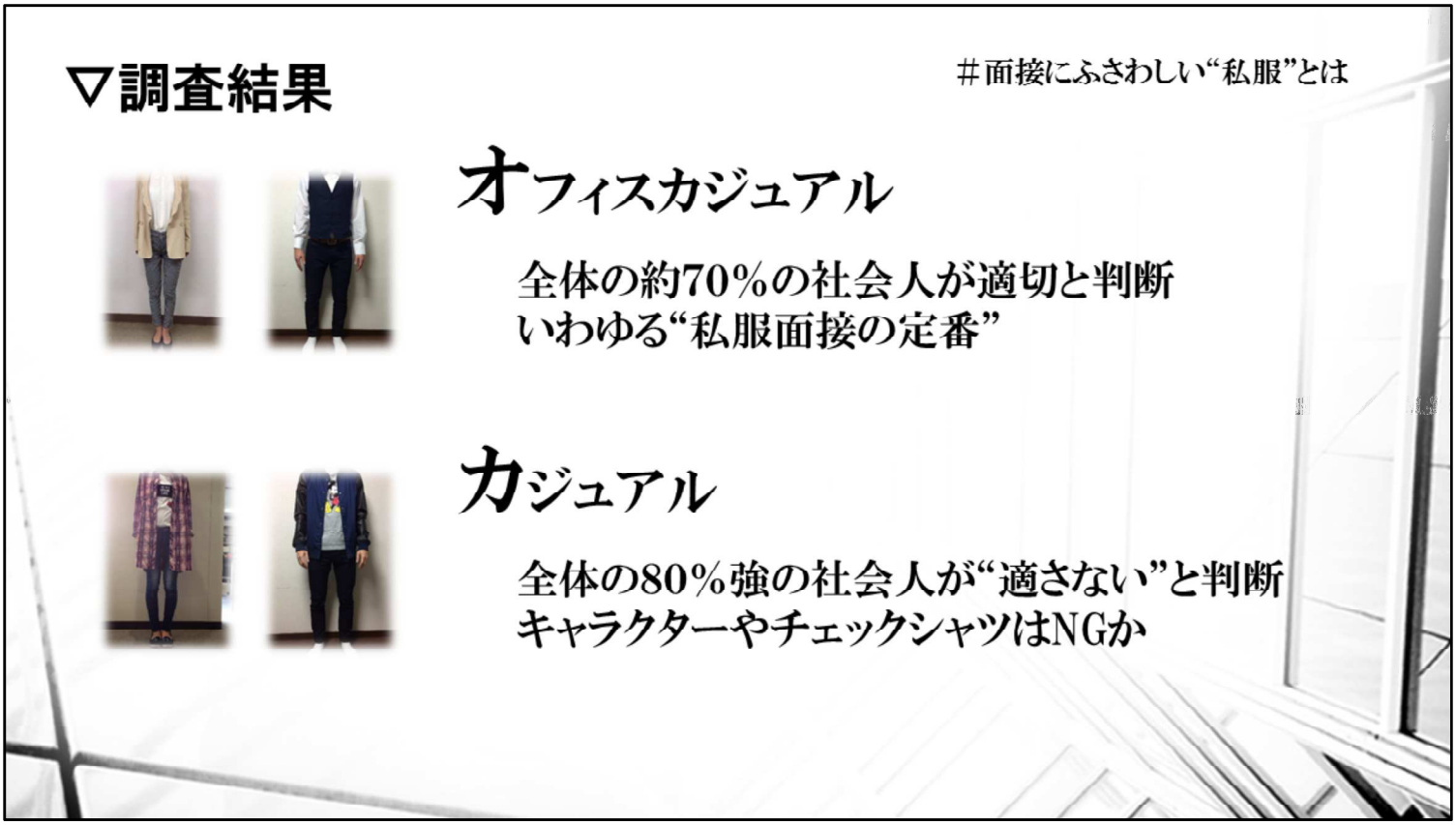
一つ目の調査は、このように行いました。



男性の結果はこんな感じ。

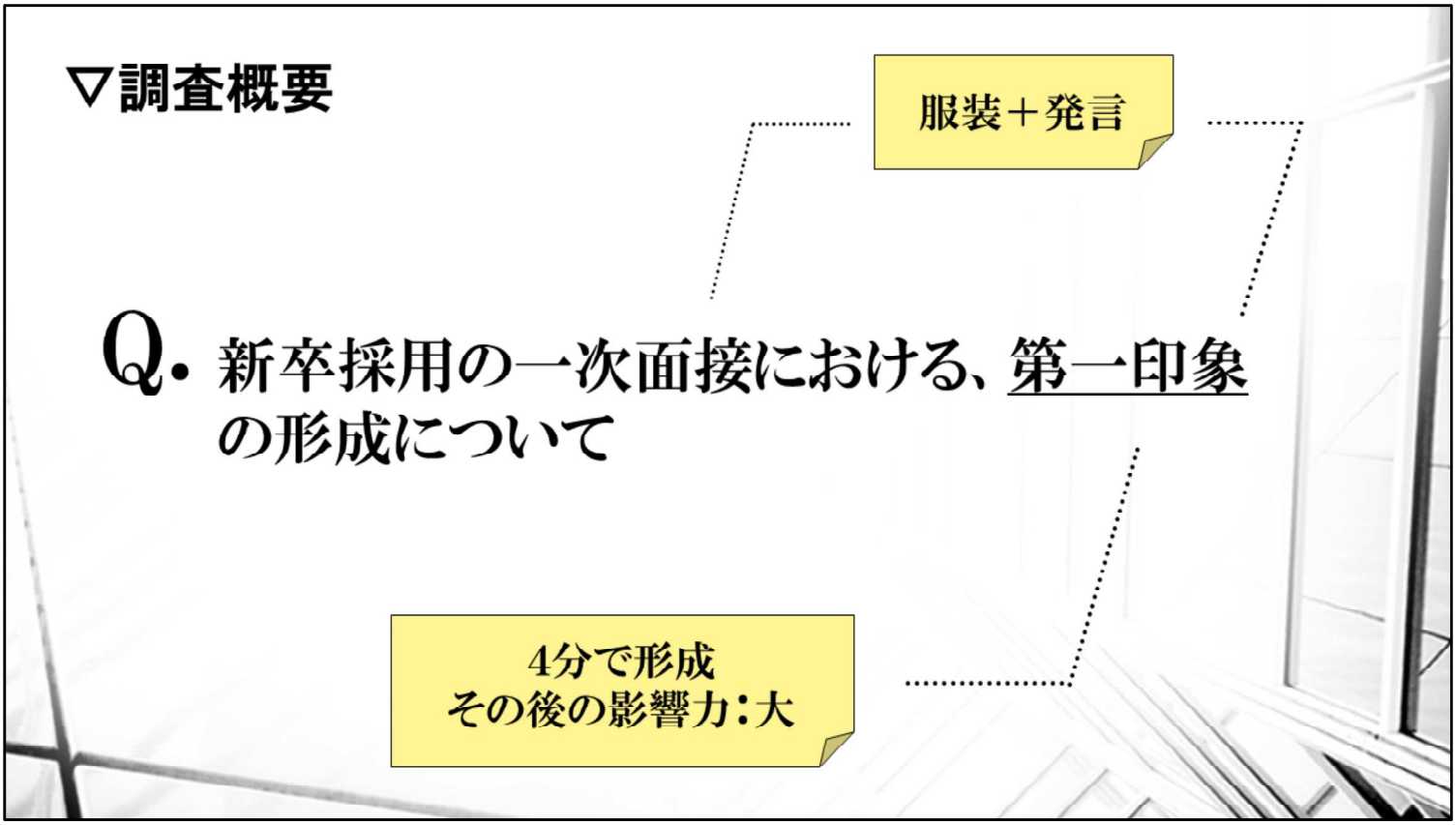


女性の結果はこんな感じ。



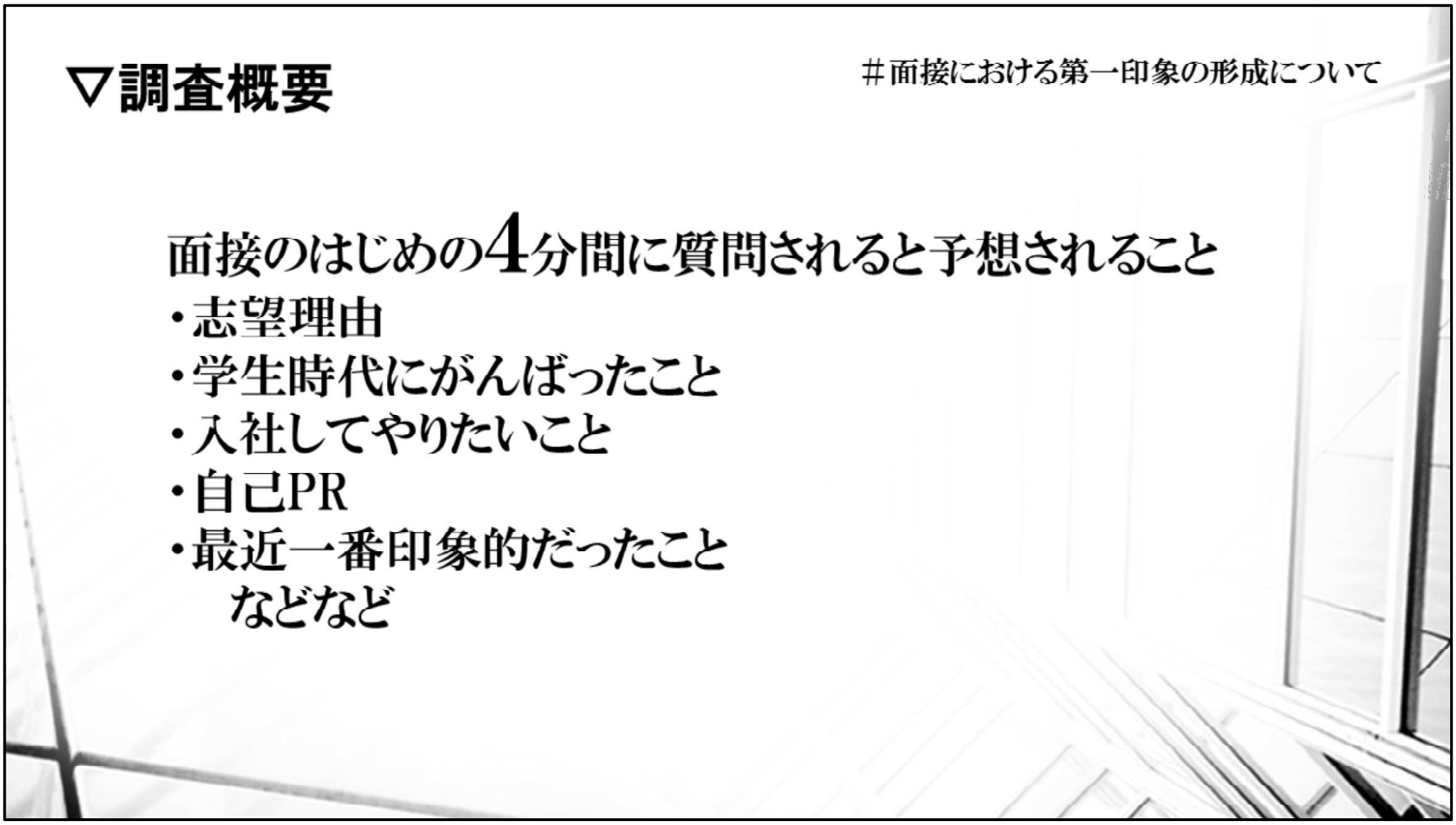
今回の調査から判明したのは
オフィスカジュアル、と呼ばれる服装が、私服面接においてはもっとも無難である
ということ
また、キャラクターやチェックシャツに対して、不適切であると判断した社会人が多かった
ということです。

学生としては、この調査により、私服面接に着て行く服装のひとつの基準ができたかと思います。

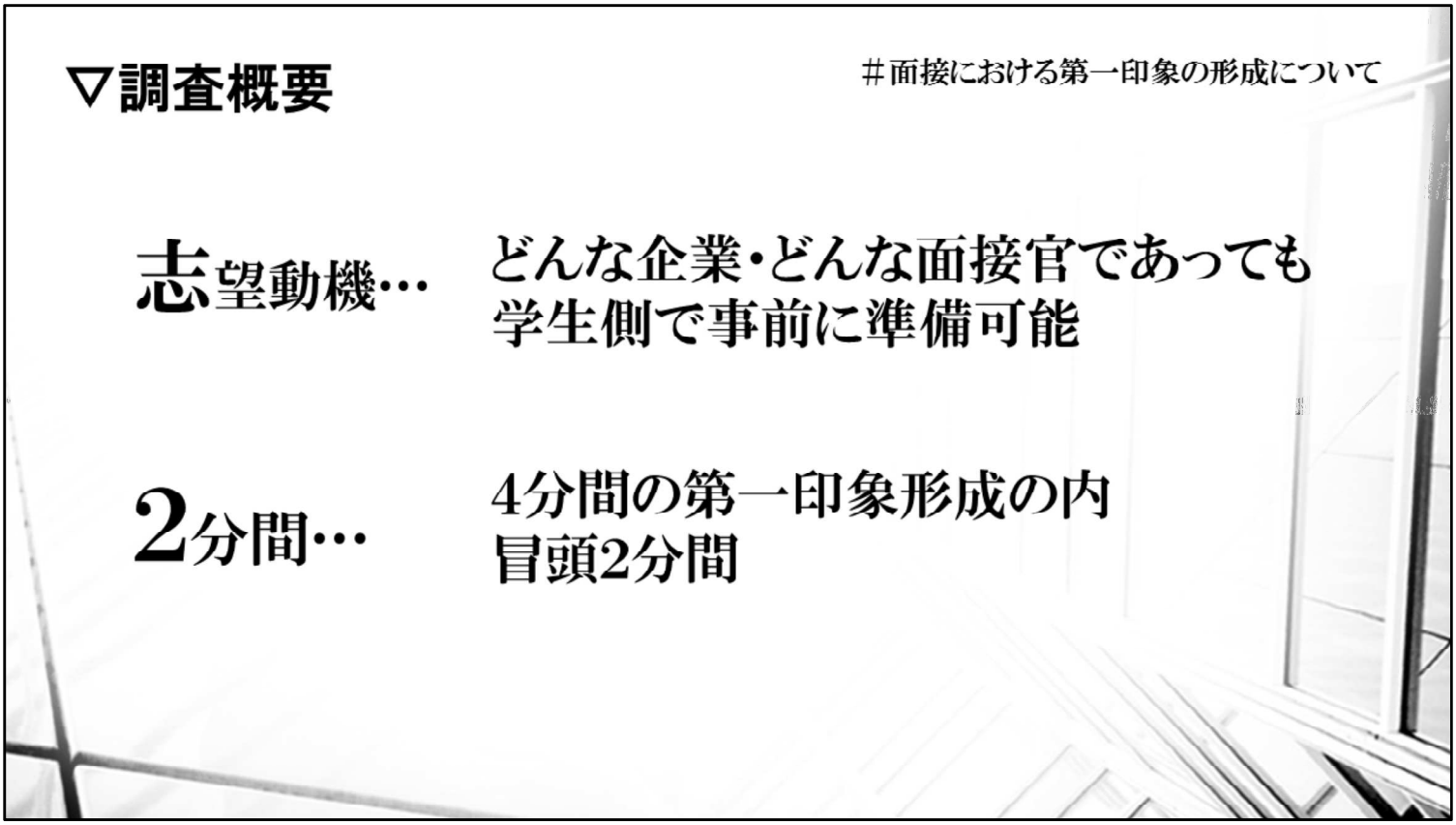


さて、二点目の調査です。
冒頭にお話したように、
４分で形成される第一印象は、その後の評価に大きな影響力をもちます。
そして、新卒採用の一次面接において、その第一印象は「服装と発言」で形成されるものとします。

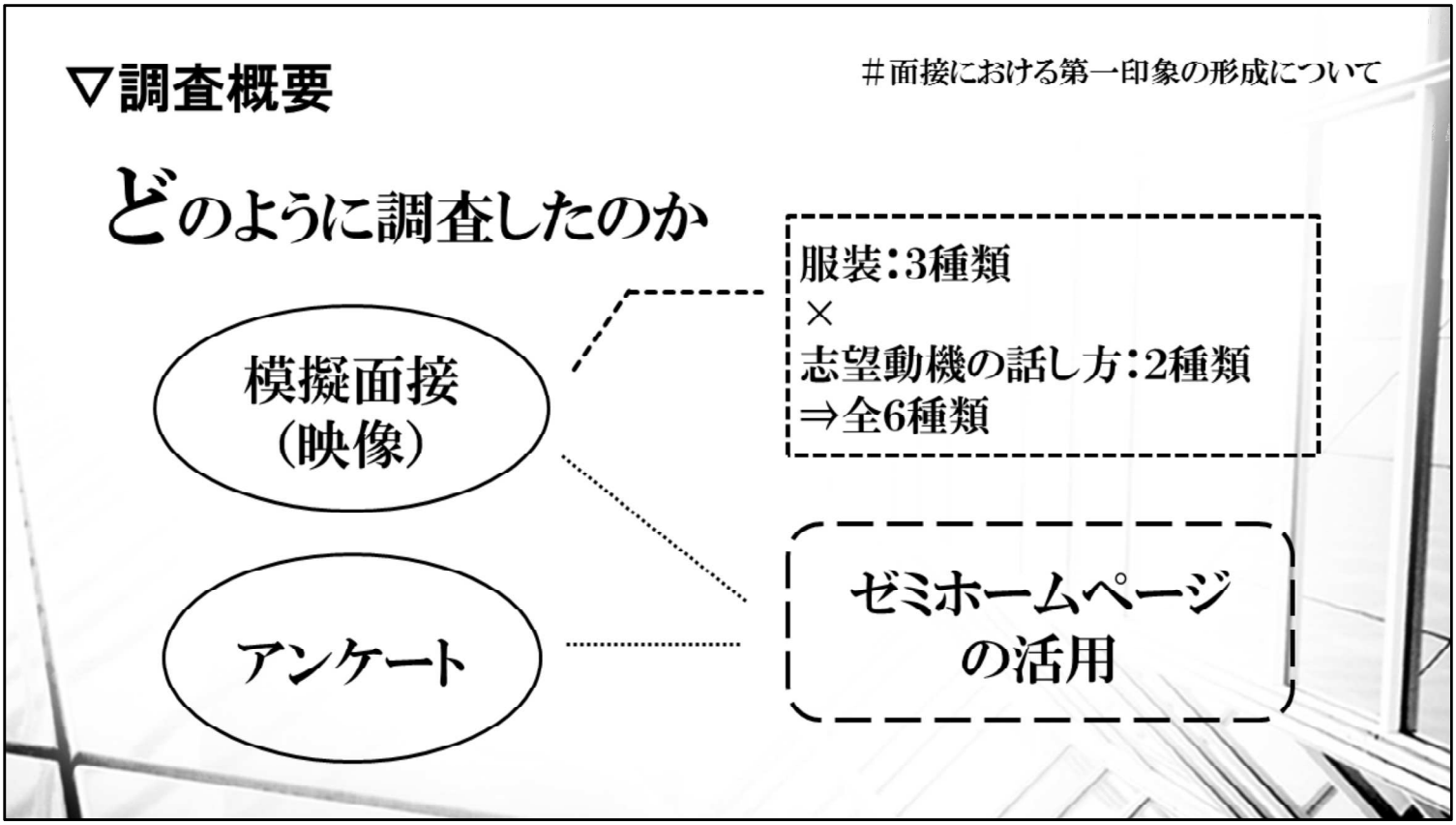
第一印象の形成に、服装と発言がどのように影響しているのか、調査しました。



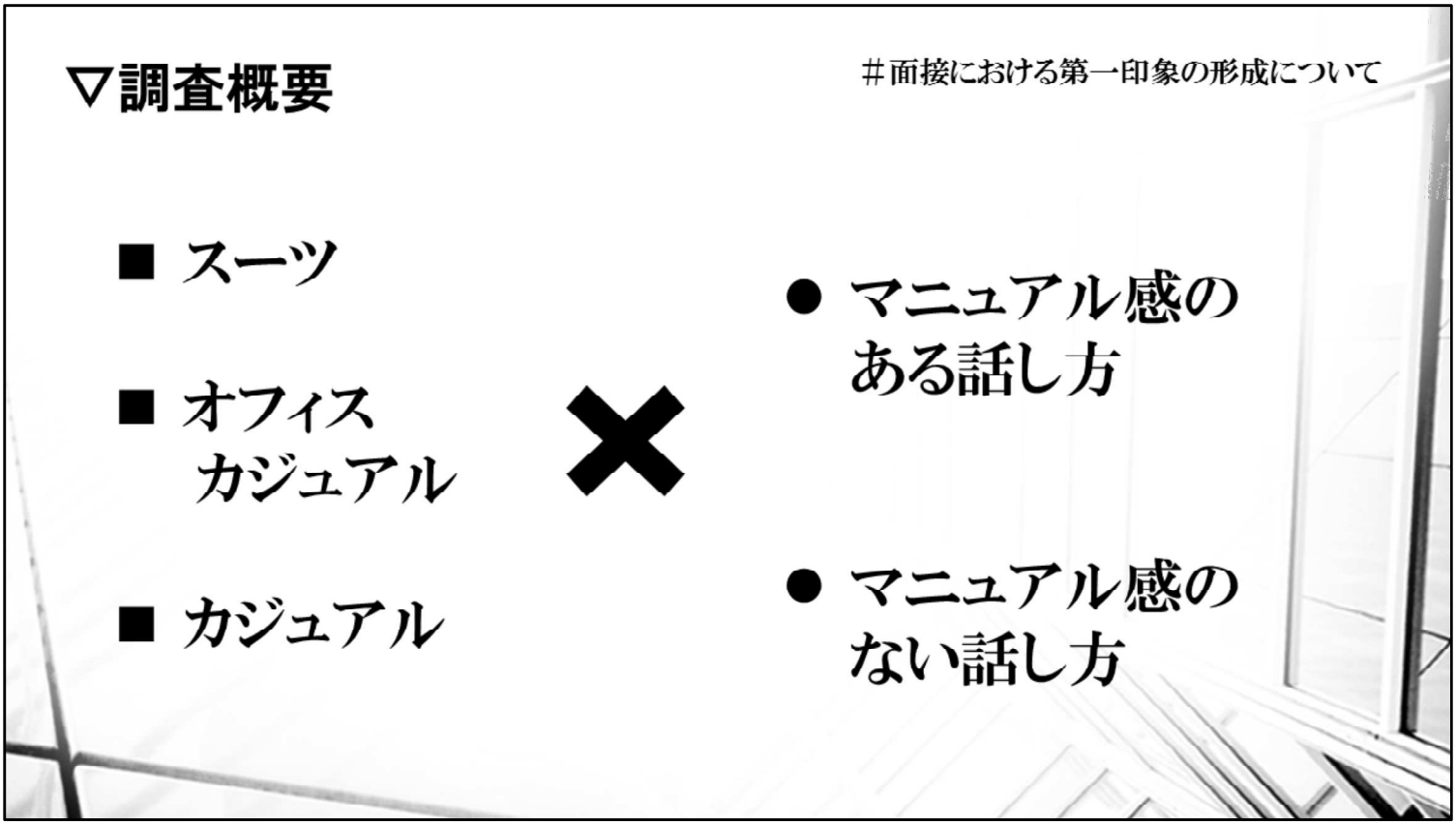
さて、面接の冒頭４分間でどんな会話がなされるか想像してみます。
志望理由、学生時代にがんばったこと、自己PRなどなど…
質問される内容は、実に多岐にわたるでしょう。
時間的制約上、そのそれぞれのケースについて調査を行うわけには行きません。



そのため、今回は、どんな企業・どんな面接官であっても質問する可能性の高い、
そして、学生自身が確実に準備することのできる、「志望動機」にフォーカスして調査を行いました。
時間にして、第一印象形成の前半２分間、
ここで、どんな服装、どんな話し方だとより良い第一印象が形成されるのか、
調査しました。

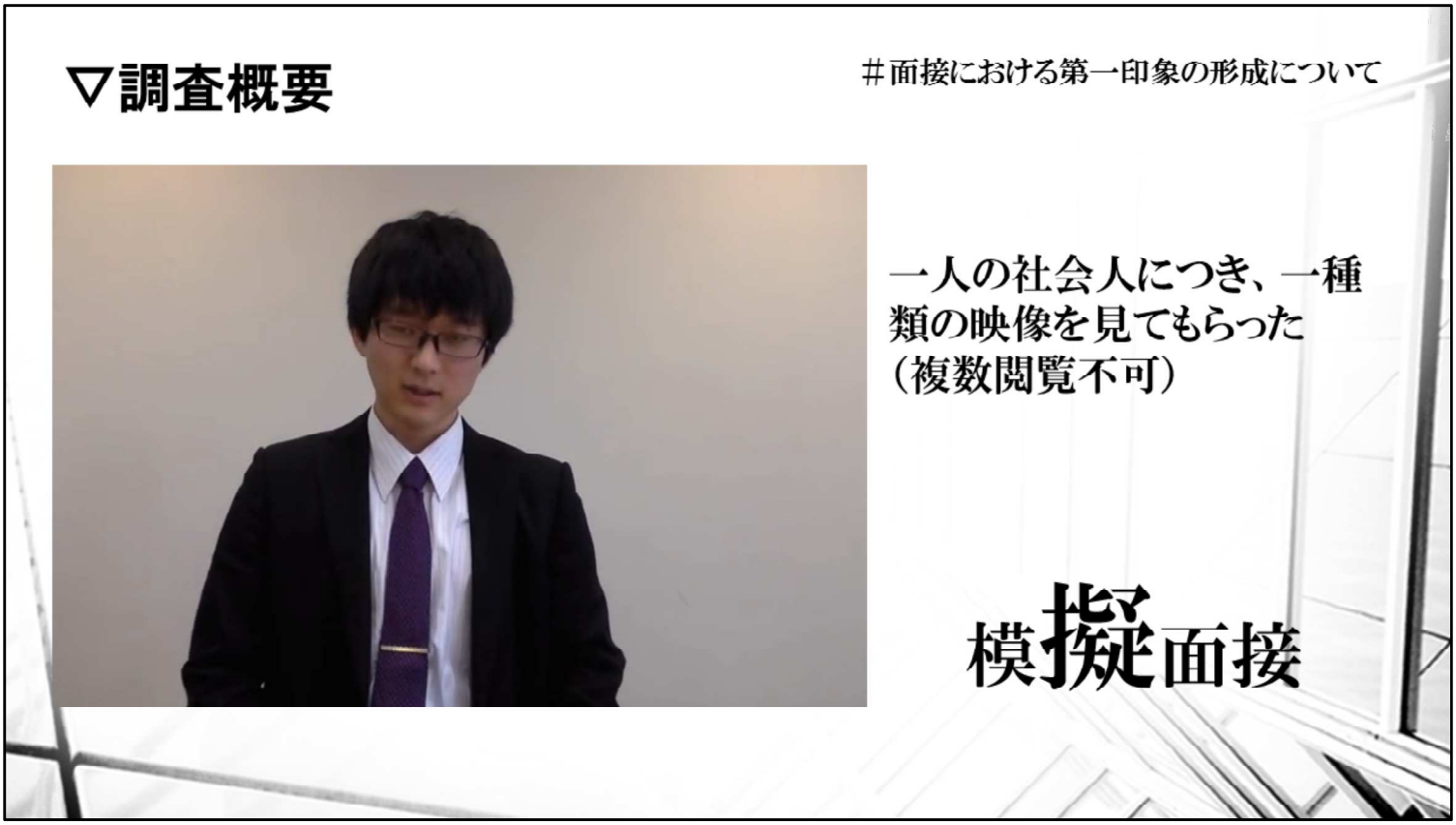


どのように調査をしたのか、調査方法を紹介していきます。
まず、志望動機を話している模擬面接の映像を、服装違いで３種類、志望動機の話し方違いで２種類の
合計６種類用意します。
そして、それらの動画へのリンクをゼミのホームページに掲載し、動画についてのアンケートをとりました。

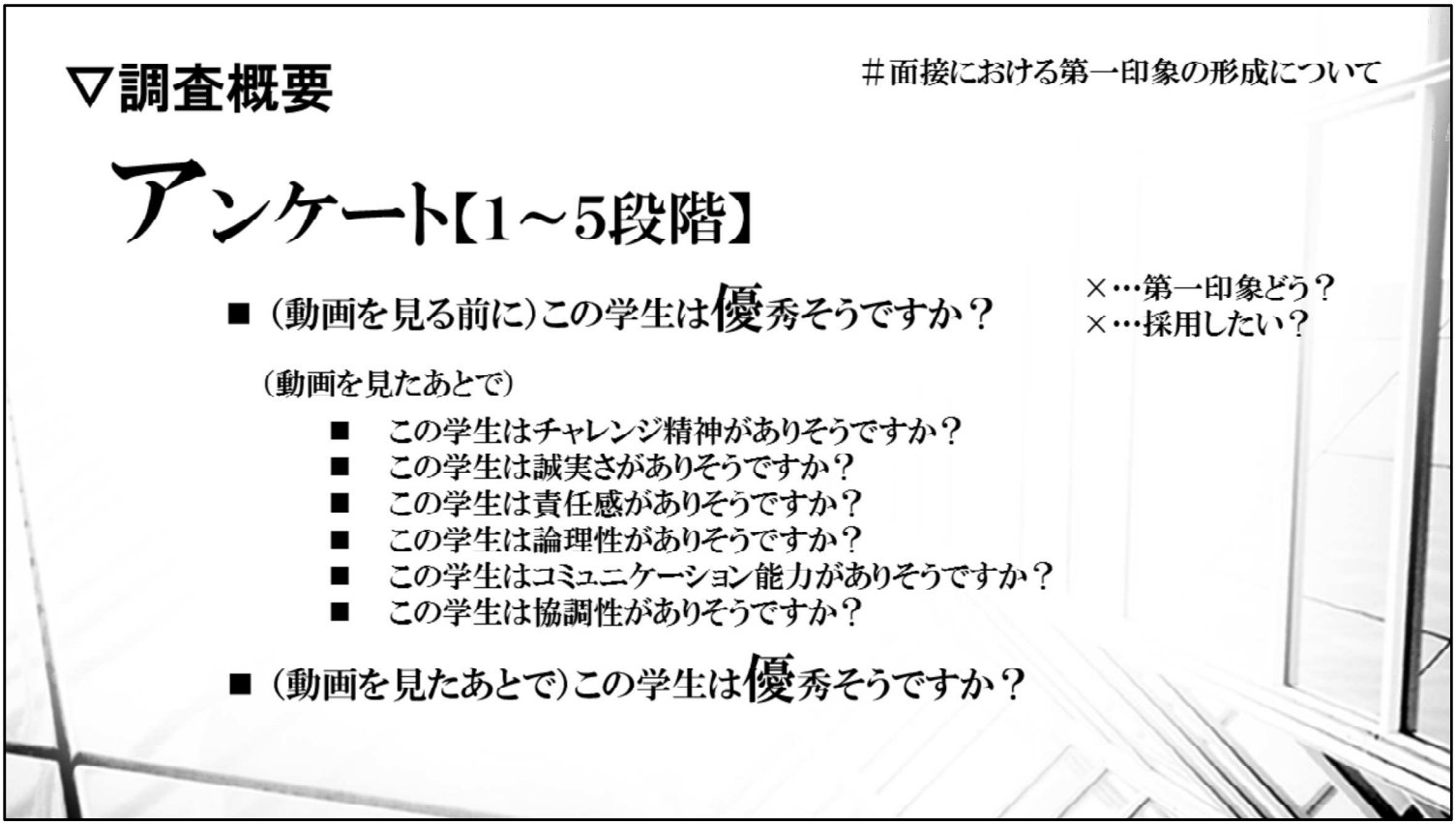


どのような映像を用意したかといいますと、
このように、服装のカッチリ度合いで３段階
発言として、志望動機の話し方を２種類
合計６種類を用意しました。

各話し方の説明！！



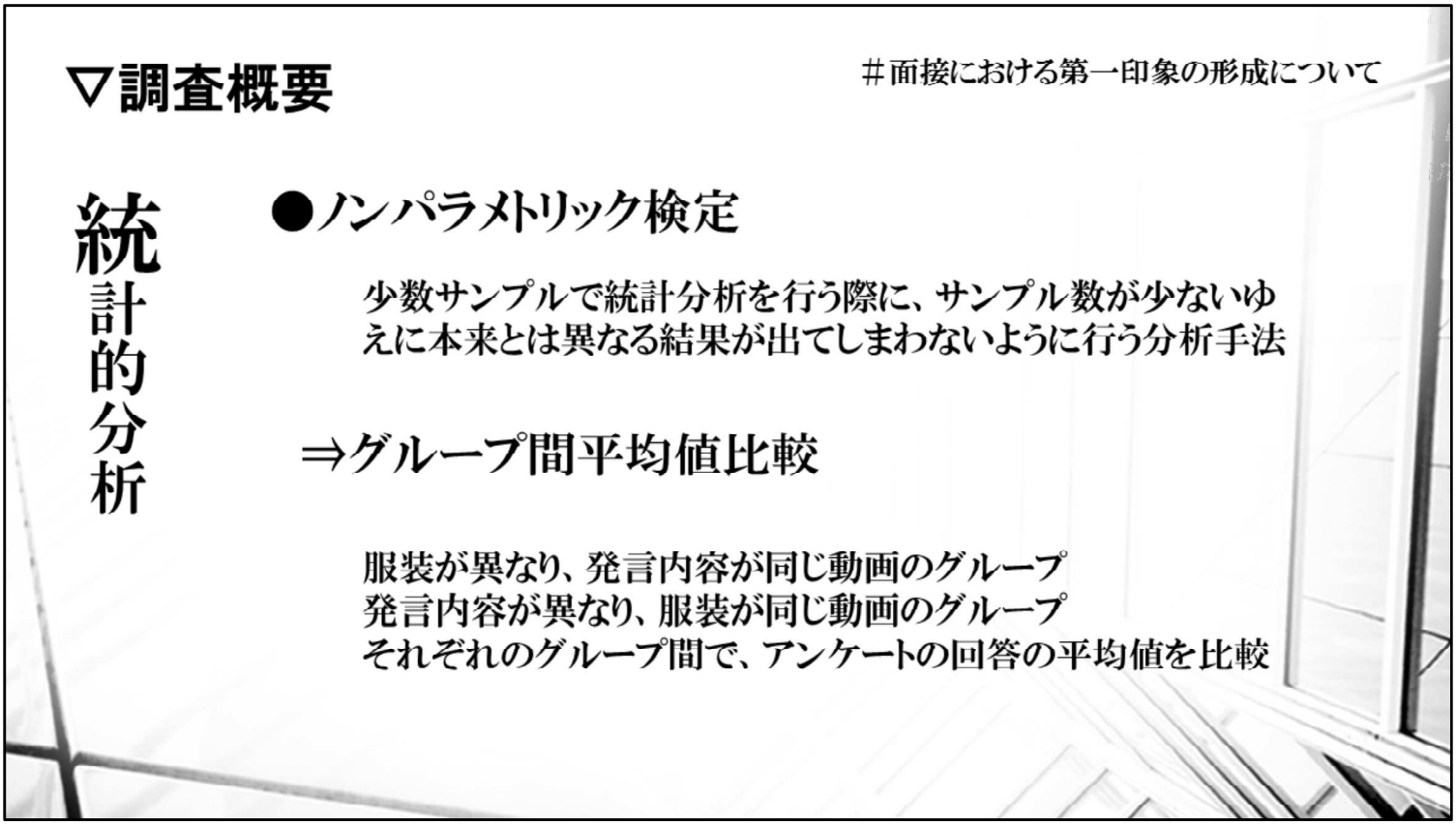
具体的には、どんな映像だったのかといいますと、こんな。
もちろん、一人の方が、同じメガネのお色直しバージョンの映像をみたとて、
なんだこれ、、、となるだけですから、ひとりの社会人に一種類の映像のみを
見ていただいております。



アンケートはこのような設問で行いました。質問としては、あえてザックリとした「優秀そうか？」という言い回しにしました。
なぜなら、動画を見る前の第一印象からは、特定の項目は判断し得ないと考えたためです。
しかし、直球で「第一印象はどうですか？」と質問してしまうと、外見の好みなどの、個人的な要素が含まれてしまう可能性があります。
そして、「採用したいですか？」としなかった理由は、各社の状況などを含めてほしくなかったからです。
それでも、採用面接においての評価であるため、企業にとって有益であるかどうかは重要な基準です。
そのためあえて、「優秀そうですか？」というざっくりした質問の仕方を採ったわけであります。

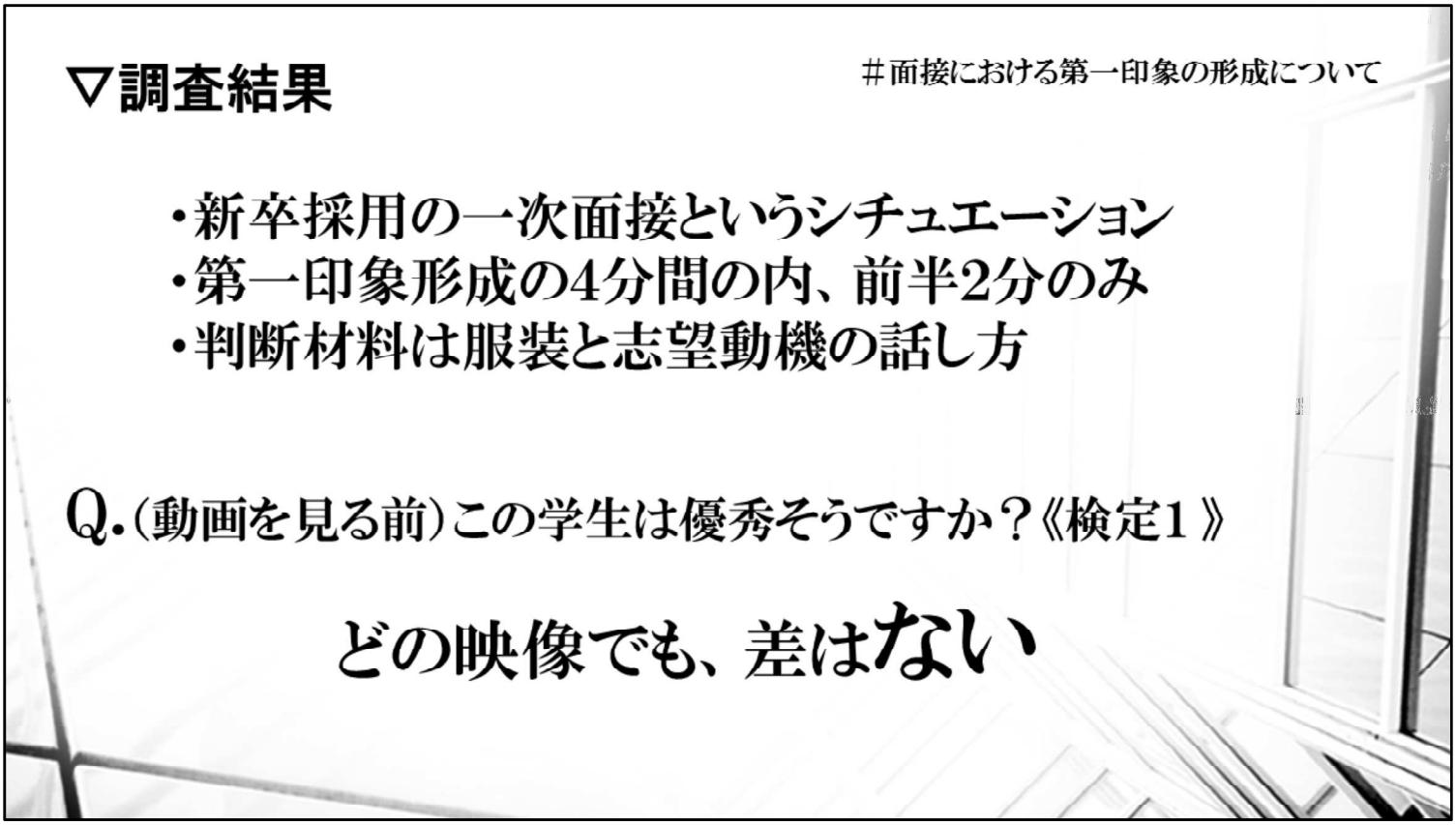
サブ的な質問として、細かい要素についても質問していますが、
これは、それぞれの優秀さの判断が何によってもたらされているかを分析するために用意しました。
第一印象を高評価にするためには、どのような要素を特に重視すれば良いかを判断するための材料となるかと考えたためです。

（細かいのは、どこから持ってきたの？→→未発表だけど、先生の本で、人事の方に学生のどこを見ますかというアンケートの結果から上位項目を抜粋したで☆）



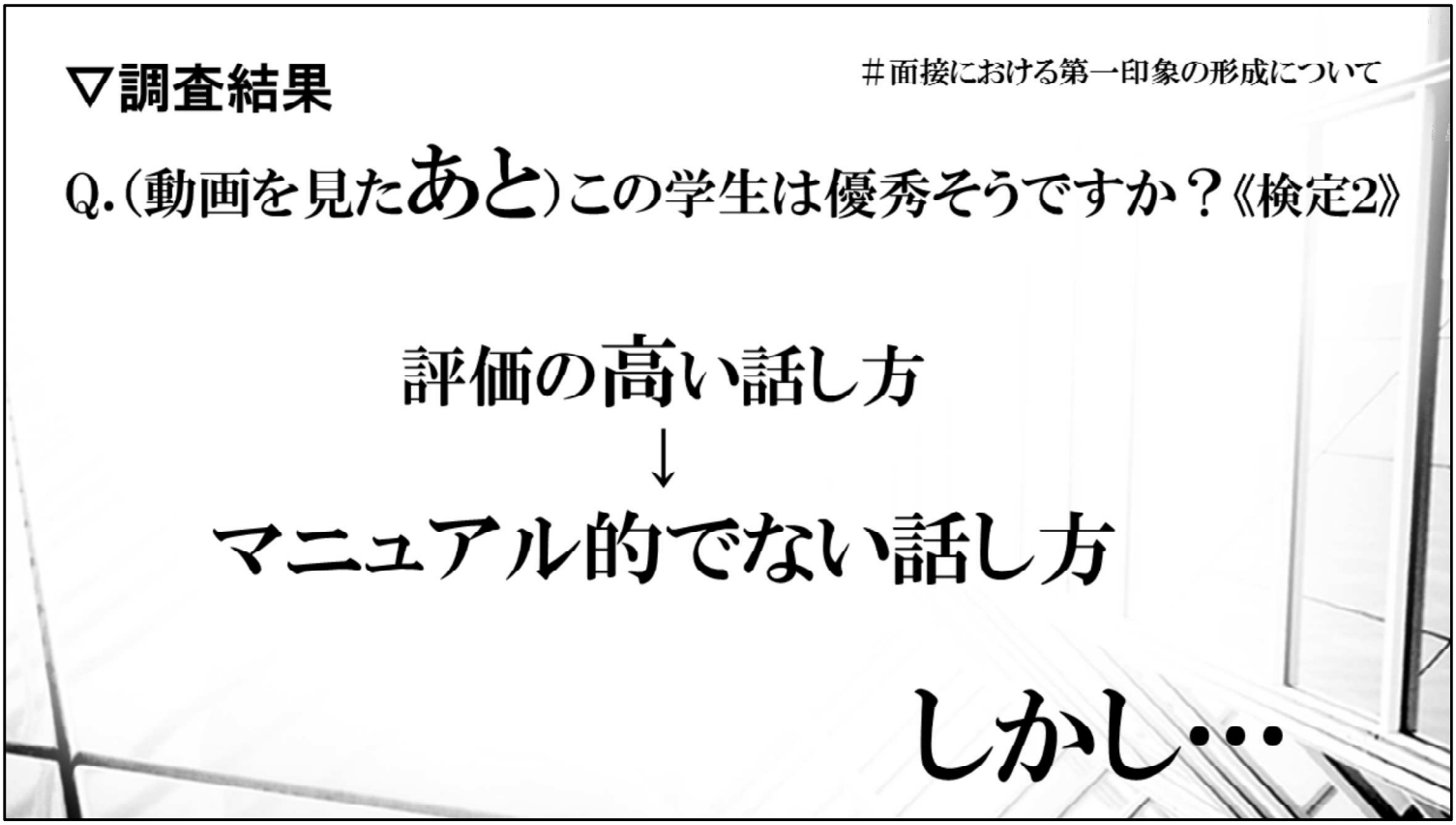
さて、集めたデータをどのように分析したのかといいますと
まず、今回は動画の種類が６種類もあり、加えて多忙な社会人の方に協力を依頼している関係上
サンプル数は十分とは言い切れない状況でした
よって、私達はサンプル数が少なくても大丈夫な、ノンパラメトリック分析を行いました。

そして、服装が違って言っている事が同じの動画たちを比較したり
服装は同じだけど言ってる事が違う動画たちを比較したりしました。



さて、そのような分析手法を用いて、統計学的な分析を行ったわけですが
新卒採用の一次面接、第一印象の形成にかかる４分間のうち前半2分のみ、判断材料は服装と志望動機の話し方
と、この条件で、比較分析を行いました。

すると、志望動機を聞く前の評価では、どの映像でも差はみられませんでした。



どんな服を着ていても、ぱっと見の印象は差異がないと申しました
では、志望動機を聞いた後では、どのような評価となったでしょうか

実は、マニュアル的でない話し方のほうが、総じて高評価を受けていました。
これは、昨今の面接マニュアル本を鵜呑みにすることの危険性があることを示
唆しています。

しかし、（クリック）

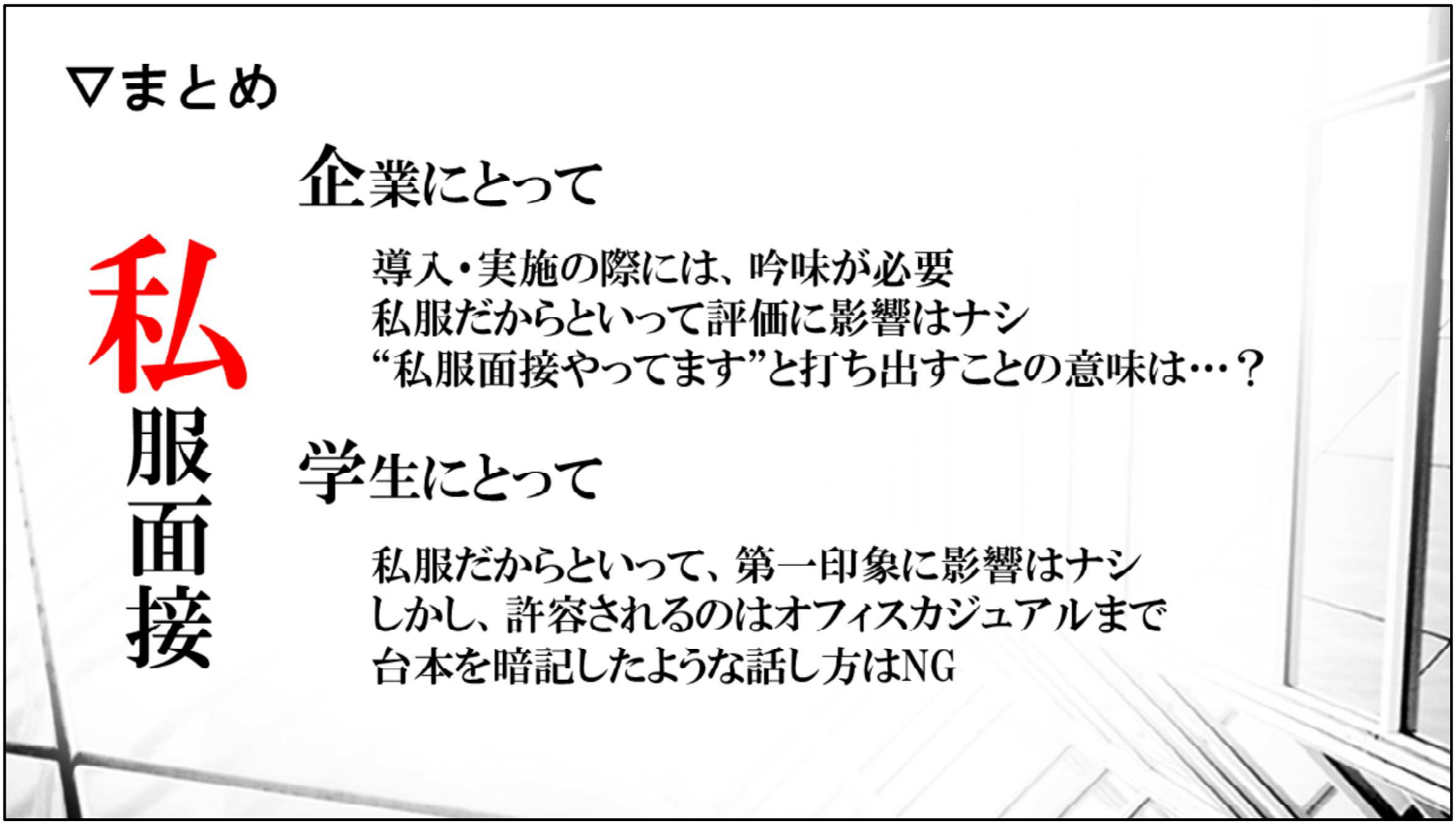
▽調査結果

＃面接における第一印象の形成について

Q.（動画を見たあと）この学生は優秀そうですか？《検定3》

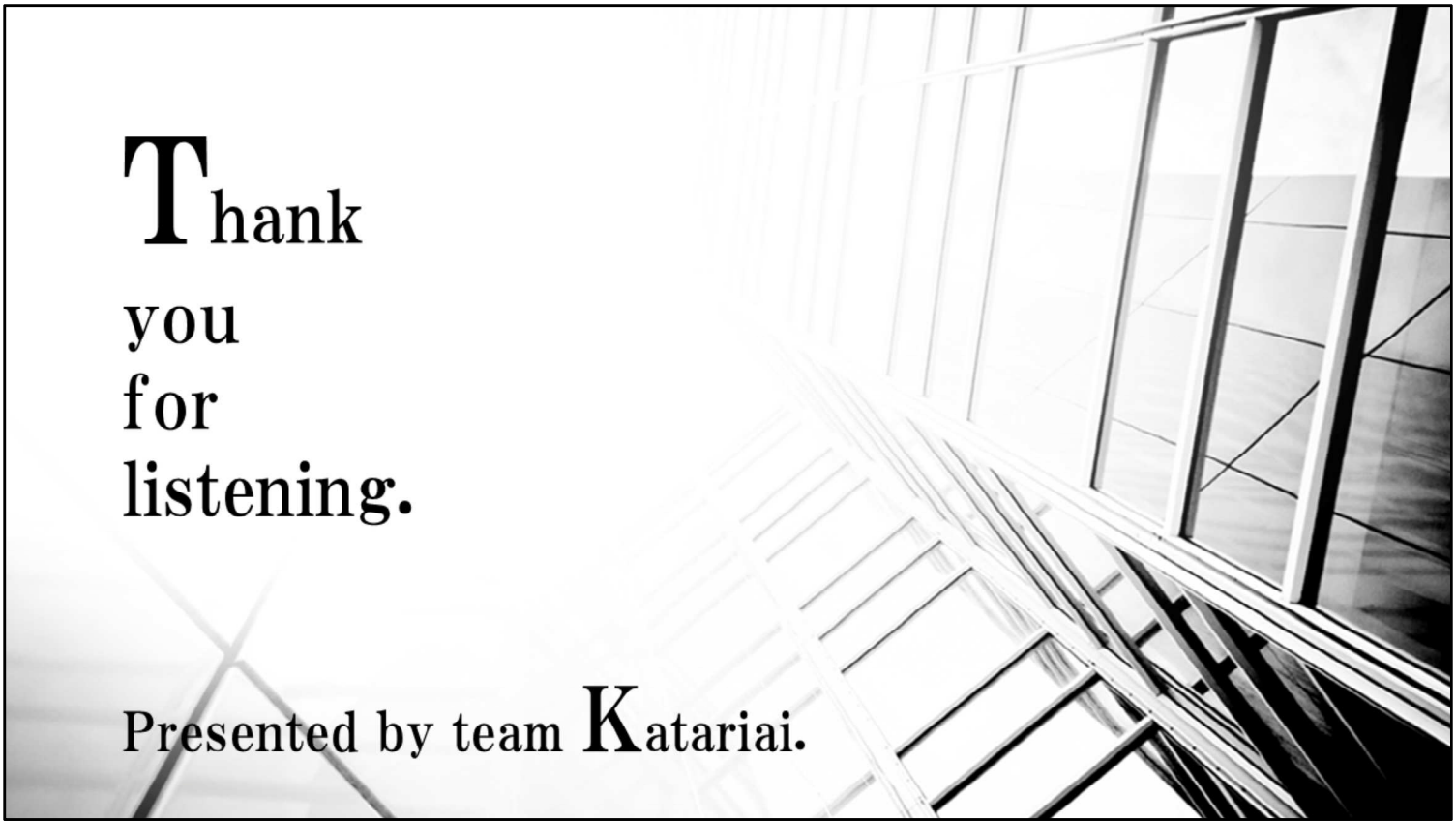
服装の違い（私服面接ゆえの）による評価の差異は存在しない

発言による差がみられたにもかかわらず、服装が違うことによる評価の差異はありませんでした。
これは、面接において、服装が評価に良くも悪くも影響しない可能性を示唆しています。



さて、ここら辺でまとめに参りましょう。
前半でお話しました、私服面接に適切な服装は、グラフからわかりましたように、
スーツに近しい、オフィスカジュアルが、許容の限界でした。
そして、先ほどまでお話していた、第一印象の形成　に関する調査から
少なくともぱっとみの評価は、私服だからといって、大きな差はみられないということがわかりました。
そして、志望動機を聞いた後、すなわち冒頭２分間での評価では、発言による優劣はあれど、服装が違うことによる評価への影響はみられないということがわかりました。

よって、企業の方が、私服面接を導入、もしくは実施するときは
それによってどんなメリットがあるか、これまで以上に吟味する必要があるということでございます。
また、学生にとっては、第一印象には私服だからといって大きな影響は有りませんが、
許容されているのはオフィスカジュアルまでであることをアタマに入れておく必要があります。
そして、面接の際には台本を暗記するのではなく、自分の言葉で伝えることが重要であるということですね。


Thank
you
for
listening.
Presented by team Katariai.